

厚生労働科学研究費補助金
がん対策推進総合研究事業

わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と
具体的な運用方法の検討

令和元年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 青木 大輔

令和2（2020）年 5月

目次

| | |
|--|----|
| I. 総括研究報告 | |
| わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と 具体的な運用方法の検討 | |
| 総括研究報告書 青木大輔 | 3 |
| II. 関連資料 | 16 |
| III. 研究成果の刊行に関する一覧表 | 18 |

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

研究代表者 慶應義塾大学・医学部産婦人科学・教授 ・ 青木大輔

研究要旨

わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法については「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき子宮頸部細胞診が採用されている。一方、主に海外のエビデンスから、細胞診に比してより検査感度の高いHPV検査を用いた子宮頸がん検診の有効性が示されており、欧州、オセアニアを中心に国の対策型検診にHPV検査を導入する動きがある。わが国でも2018年11月に国立がん研究センターより「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2018年度版ドラフト（以下、ガイドライン ドラフト）」が公表され、子宮頸がん検診の手法として、現行の細胞診単独法に加え、HPV検査単独法および、細胞診・HPV検査併用法についてもドラフトの段階ではあるが推奨とされている。しかしながら、これらの海外のエビデンスは、検診の精度管理が理想的に実施されている状況（組織型検診）において構築されたものであり、検診の精度管理体制が十分とは言えないわが国において同じ効果が上げられる保障はない。実際にHPV検査をわが国の子宮頸がん検診に導入して効果を上げるためには、特異度を上げるためのアルゴリズム（HPV検査陽性者に何の検査を行い、どのような結果になったら検診に戻すかなどを定める）の検討と、受診者がそのアルゴリズムを遵守できるような工夫と厳密な精度管理が必要である。前述の「ガイドライン ドラフト」においても、研究への提言として、今後わが国で新たな子宮頸がん検診の導入を図る際には、わが国の日常のプラクティスレベルで実行可能かどうかの検討（実装・普及研究）が必要であることが指摘されている。

HPV検査を用いた検診の中でも特に細胞診・HPV検査併用法は、2種類になった検査結果の組み合わせが複雑になるため、その後のマネジメントに負荷がかかることが懸念される。HPV検査を検診に導入した場合の、検診結果別に、その後どういった精密検査等を行うかを示すアルゴリズムは、「ガイドライン ドラフト」では示されておらず、確立されていないと記載されている。がん検診の効果を上げるためには、アルゴリズムを定め、それを遵守できるための工夫と的確な精度管理を行うことが重要であるが、わが国においては現在推奨されている細胞診単独法による検診においてですら、全国的に画一されたアルゴリズムの確定ができていないと言いがたい。

そこで本研究は、子宮頸がん検診のアルゴリズムのパターンを文献、公表物等から調査し、それぞれのパターン別の精度管理体制を調査することを目的の一つとしている。今年度は、有効性が示された子宮頸がん検診がどのようなアルゴリズムで実施され、検診としての有効性が確認された際の実施状況がどのようなものであったかを把握するための前段階として、①「ガイドライン ドラフト」および「2009年 有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」において評価対象として採用された14研究、②細胞診単独法で検診を実施しているガイドラインのある11カ国のガイドライン、③HPV検査を用いた子宮頸がん検診を実施しているガイドラインのある3カ国のガイドラインの抽出を行い、アルゴリズムおよび精度管理評価指標をレビューするためのフォーマットの作成を行った。

| | |
|---------|--|
| 研究分担者氏名 | ・所属研究機関名及び所属研究機関における職名 |
| 八重樫 伸生 | ・国立大学法人 東北大学・大学院医学系研究科 婦人科学学野・教授 |
| 藤井 多久磨 | ・藤田医科大学・医学部産婦人科学・教授 |
| 宮城 悦子 | ・横浜市立大学・大学院医学研究科 生殖生育病態医学・教授 |
| 中山 富雄 | ・国立がん研究センター・社会と健康研究センター検診研究部・部長 |
| 齊藤 英子 | ・国際医療福祉大学三田病院・予防医学センター・講師 |
| 森定 徹 | ・慶應義塾大学・医学部産婦人科学・専任講師 |
| 高橋 宏和 | ・国立がん研究センター・社会と健康研究センター検診研究部 検診実施管理研究室・室長 |
| 戸澤 晃子 | ・聖マリアンナ医科大学・医学部産婦人科・病院教授 |
| 雑賀 公美子 | ・国立がん研究センター・がん対策情報センターがん登録センター 全国がん登録室・研究員 |

A. 研究目的

わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法については「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき子宮頸部細胞診による検診が実施されている。対策型検診では、その効果を維持するために検診の実施状況や効果を評価するために必要な集計や解析体制を確保するなどの精度管理体制の構築が必須である。しかし、現行のがん検診事業における精度管理状況は向上してきているものの未だ十分とは言い難い状況である。

検診手法として細胞診に比してより検査感度の高いHPV検査に関して、2018年11月に国立がん研究センターより「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2018年度版ドラフト」が公表された。ここでは子宮頸がん検診について、細胞診単独法、HPV検査単独法および、細胞診・HPV検査併用法についての推奨グレード、証拠のレベルおよび利益/不利益の対比などが示され、従来から推奨されていた細胞診単独法に加え、HPV検査単独法および、細胞診・HPV検査併用法についても、ドラフトの段階ではあるが推奨されている。ただし、この「ガイドライン ドラフト」の中で研究への提言として、今後わが国で新たな子宮頸がん検診の導入を図る際には、わが国の日常プラクティスレベルで実行可能かどうかの検討（実装・普及研究）が必要であることが指摘されている。

特に、細胞診・HPV検査併用法では、検診結果が細胞診の判定結果を大きく分けた3つのパターン

(NILM、ASC-US、ASC-US<)とHPV検査の結果の2パターン(陽性、陰性)の計6通りと組み合わせとなり、その組み合わせの結果ごとに精密検査の検査内容も施行時期も異なるため、その後のマネジメントに負荷がかかることが懸念される。しかし、検診結果別のその後どういった精密検査等を行うかを示すアルゴリズムはガイドライン ドラフトでは明示されておらず、確立されていないと記載されている。現行の細胞診単独による検診においてですら精度管理が不十分であり、かつ全国的に画一されたアルゴリズムの確定ができてはいない中、HPV検査をわが国の子宮頸がん検診に導入して効果を上げるためには受診者に対して検診結果別に次に受ける検診や精密検査の内容を決め、どのような結果になったら次回の検診に戻れば良いのかなどのアルゴリズムを検討すること、そしてそのアルゴリズムが遵守できるような工夫と厳密な精度管理体制が必要である。わが国の対策型検診の内容の決定には、ガイドラインで推奨されることに加え、厚生労働省で組織される「がん検診のあり方検討会」において対象年齢、検診間隔およびアルゴリズムなどの実際の運用方法を決定するという過程を経る必要がある。現在はまだガイドラインのドラフトの公表しかされていないが、今後のガイドラインの公表に向けて、厚生労働省での実際の運用を決定する際の参考となるアルゴリズム等に関連した資料を作成することが本研究の目的である。

今年度は細胞診単独法、HPV検査単独法および、細胞診・HPV検査併用法のアルゴリズムについて、有効性評価研究および国家のレベルでその検診が実施されている国でどのようなアルゴリズムが用いられているのかを調査することを目的に、報告されている研究や諸国の情報を調査した。

B. 研究方法

本研究で、検討すべき検診のアルゴリズムを満遍なく網羅するためには、何を調査することが最も効果的かを議論し、調査対象を決定した。またアルゴリズムを調査するための様式の作成と、精度管理体制の確認のために必要と考えられる調査項目を特定した。

今回の目的は、検診の有効性を評価することではなく、すでに有効性が示された子宮頸がん検診の手法がどのようなアルゴリズムで実施されていて、その評価された際の実施状況がどのようなであったかを把握することであるため、下記の研究および日本および各国の対策型検診におけるガイドラインを調査することとした。

- ① 「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年度版ドラフト」および「2009年子宮頸がん検診ガイドライン」で評価対象として採用された研究
- ② 細胞診単独法で検診を実施している日本、および諸外国の検診のガイドライン
- ③ HPV検査を用いた子宮頸がん検診を国家のレベルで実施している国のガイドライン
- ④ 国レベル以外で諸学術団体等によるガイドライン (US Preventive Services Task Forceなど)

さらに、上記①～③について下記資料をレビューし、アルゴリズムと精度管理状況の情報を収集することとした。④については継続して候補を絞る予定としている。

(倫理面への配慮)

本研究は主に文献収集および地方自治体等を対象にした調査であり、個人への介入は行わない。人体から採取された資料は用いないため、倫理上、特に問題は発生しない。

C. 研究結果

調査対象となった研究およびガイドラインがどの程度あるかを検討した結果を以下に示す。

- ① 「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年度版ドラフト」および「2009年子宮頸がん検診ガイドライン」で評価対象として採用された研究 (14文献)

- Berget A. Screening for Cervical Neoplasia. A Survey of the Assumptions From Studies on the Screening in Maribo. Dan Med Bull. 1979; 26(7):313-332.
- Aklimunnessa K et al. Effectiveness of cervical cancer screening over cervical cancer mortality among Japanese women. Jpn J Clin Oncol 2006;36:511-518
- Ronco G and et al. Impact of the introduction of organized screening for cervical cancer in Turin, Italy: cancer incidence by screening history 1992-98. Br J Cancer 2005;93:376-378
- Kitchenner HC et al. HPV testing in combination with liquid-based cytology in primary cervical screening (ARTISTIC): a randomized controlled trial. Lancet Oncol.

2009;10:672-682

- Naucler P et al. Human papillomavirus and papanicolau tests to screen for cervical cancer. N Engl J Med 2007;357:1589-97
- Rijkaart DC et al. Human papillomavirus testing for the detection of high-grade cervical intraepithelial neoplasia and cancer: final results of the POBASCAM randomized controlled trial. Lancet Oncol 2012;13:78-88
- Bulkman N W et al. Human papillomavirus DNA testing for the detection of cervical intraepithelial neoplasia grade 3 and cancer: 5-year follow-up of a randomized controlled implementation trial. Lancet 2007;370:1764-1772
- Ronco G et al. Efficacy of HPV-based screening for prevention of invasive cervical cancer: follow-up of four European randomized controlled trials. Lancet 2014; 383:524-532
- Ronco G et al. Efficacy of human papillomavirus testing for the detection of invasive cervical cancers and cervical intraepithelial neoplasia: a randomized controlled trial. Lancet Oncol. 2010;11: 249-257
- Leinonen MK et al. Detection rates of precancerous and cancerous cervical lesions within one screening round of primary human papillomavirus DNA testing: prospective randomized trial in Finland. BMJ. 2012;345: e7789
- Sankaranarayanan R et al. HPV screening for cervical cancer in Rural India. N Engl J Med 2009;360:1385-1394
- Coldman AJ et al. Disease detection and resource use in the safety and control arms of the HPV FOCAL cervical cancer screening trial. Br J Cancer 2016;115:1478-1494
- Ogilvie GS et al. Effect of screening with primary cervical HPV testing vs cytology testing on high-grade cervical intraepithelial neoplasia at 48 months. JAMA. 2018;320:43-52
- Smelov V et al. Long-term HPV type-specific risks of high-grade cervical intraepithelial lesions: a 14-year follow-up of a randomized primary HPV screening trial. Int J Cancer 2015;136:1171-1180

②細胞診単独法で検診を実施しており、検診のガイドラインのある国の候補 (11カ国)

- 日本
- オーストラリア
- カナダ
- 中国
- オランダ
- ニュージーランド
- 韓国
- シンガポール
- スウェーデン
- 英国

• 米国

③HPV検査を用いた子宮頸がん検診を国レベルで実施しているガイドラインのある国の候補 (3カ国)

- オーストラリア
- オランダ
- 米国

さらに、①「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年度版ドラフト」および「2009年子宮頸がん検診ガイドライン」で採用された14文献をレビューするために、レビュー担当者が必要な項目を抽出できるようにレビュー用のフォーマットを作成した (別紙参照)。

D. 考察

がん検診を実施する上で、検診の効果を上げるためには、受診者に対して検診結果別に次に受ける検診や精密検査の内容を決め、どのような結果になったら次回の検診に戻れば良いのかなどのアルゴリズムを定め、受診者が遵守できるような工夫と厳密な精度管理体制を構築することは必須である。しかし、わが国においては現在推奨されている細胞診単独法による検診においてですら、全国的に画一されたアルゴリズムの確定ができていない。

科学的根拠に基づいて効果があると評価された研究においても、研究によってアルゴリズムが異なることが以前から指摘されていたが、今回それらのアルゴリズムについて初めて詳細な調査を実施する体制を整えることができた。

今後、HPV検査がわが国の子宮頸がん検診に導入されることを想定した場合、さらに検診結果別に次に受ける検診や精密検査への運用が複雑になるため、現時点においてアルゴリズムの整理をしておくことは重要である。すでに国レベルでの対策型検診にHPV検査を導入している国があるため、それらの国のアルゴリズムの確認に加え、精度管理状況の情報収集も引き続き実施していく予定である。

E. 結論

子宮頸がん検診における細胞診単独法およびHPV検査を用いた評価を実施している研究の抽出および、そのアルゴリズムを調査する準備は終了した。また、国レベルでの子宮頸がん検診のガイドラインがWebや書籍等で確認できる国の候補の絞り込みまで行った。

F. 健康危険情報

本研究は主に文献収集および地方自治体等を対象にした調査であり、個人への介入は行わないため個人への不利益や危険性は生じない。

G. 研究発表

1. 論文発表

・研究代表者 青木大輔

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博 : 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

Nakamura M, Ueda M, Iwata T, Kiguchi K, Mikami Y, Kakuma T, Aoki D : A Clinical Trial to Verify the Efficiency of the LC-1000 Exfoliative Cell Analyzer as a New Method of Cervical Cancer Screening. Acta Cytologica, 63(5): 1-10, 2019.

青木大輔 : 子宮頸部病変の検出、診断における細胞診と HPV 検査の役割. SRL 宝函, 40(2): 41-44, 2019.

青木大輔, 森定 徹 : 【特集】今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題
がん検診における精度管理の考え方—アセスメントとマネジメントの関係性を踏まえて—. 日本産科婦人科学会雑誌, 71(3) : 449-458, 2019.

青木大輔 : 子宮頸がん検診の現状と課題. 東京都医師会雑誌, 72(3):195-198, 2019.

Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D : Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. Int J Clin Oncol, 24(1): 1-19, 2019.

・研究分担者 八重樫伸生

Ito K, Kimura R, Konishi H, Ozawa N, Yaegashi N, Ohashi Y, Suzuki M, Kakizoe T : A comparison of liquid-based and conventional cytology using data for cervical cancer screening from the Japan Cancer Society. Jpn J Clin Oncol, 50(2):138-144, 2020.

Shimada M, Tokunaga H, Kobayashi H, Ishikawa M, Yaegashi N : Perioperative treatments for stage IB-IIB uterine cervical cancer. Jpn J Clin Oncol., 50(2):99-103,2020.

Matsumoto K, Yaegashi N, Iwata T, Yamamoto K, Aoki Y, Okadome M, Ushijima K, Kamiura S, Takehara K, Horie K, Tasaka N, Sonoda K, Takei Y, Aoki Y, Konnai K, Katabuchi H, Nakamura K, Ishikawa M, Watari H, Yoshida H, Matsumura N, Nakai H, Shigeta S, Takahashi F, Noda K, Yoshikawa H; MINT Study Group : Reduction in HPV16/18 prevalence among young women with high-grade cervical lesions following the Japanese HPV vaccination program. Cancer Science, 110(12):3811-3820,2019.

Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, Yaegashi N, Udagawa Y, Aoki D : Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. Int J Clin Oncol, 24(1): 1-19, 2019.

・研究分担者 藤井多久磨

藤井多久磨, 川原莉奈 : HPVワクチン接種プログラムは子宮頸がん検診をどのように変えるのか? 産婦人科の実際, 69(3):275-283, 2020.

藤井多久磨 : コルポスコープで観察できる子宮頸部・腔内病変. 日本産科婦人科学会雑誌, 71(8):1580-1585,2019.

齊藤英子, 藤井多久磨 : 【特集】今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題—子宮頸がん検診における精度管理 (マネジメント) 体制の構築—新たな検診手法導入を念頭において—. 日本産科婦人科学会雑誌, 71(3) : 469-477, 2019.

・研究分担者 宮城悦子

Suzuki Y, Sukegawa A, Nishikawa A, Kubota K, Motoki Y, Asai-Sato M, Ueda Y, Sekine M, Enomoto T, Hirahara F, Yamanaoka T, Miyagi E : Current knowledge of and attitudes toward human papillomavirus-related disease prevention among Japa

nese: A large-scale questionnaire study. J Obstet Gynaecol Res, 45(5):994-1005, 2019.

Kawaguchi R, Miyagi E, et al.: Guideline s for office gynecology in Japan: Japan So ciety of Obstetrics and Gynecology (JSO G) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2017 edition. J Obstet Gynaecol Res, 45(4): 766-786, 2019.

宮城悦子, 雑賀公美子: 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精度管理 (マネジメント) の現状と課題. 日本産科婦人科学会雑誌, 71(3): 459-468, 2019.

宮城悦子: 婦人科がんの最近の話題 子宮頸がん と HPV. 医学と薬学, 76(2): 143-152, 2019.

・ 研究分担者 中山富雄

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

中山富雄. 検診の意義とそのエビデンスーが ん検診ー. 臨牀と研究, 96(8):8-12,2019.

Taniguchi M, Ueda Y, Yagi A, Ikeda S, Endo M, Tomimatsu T, Nakayama T, Sekine M, Enomoto T, Kimura T: Cervical cancer screening rate differs by HPV vaccination status: An interim analysis. Vaccine, 37(32):4424-4426, 2019.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 日本の対策型検診における直近 5 年度分の偶発症頻度について. 厚生指標, 66(7):13-19, 2019.

Fukui K, Ito Y, Nakayama T: Trends and projections of cancer mortality in Osaka, Japan from 1977 to 2032. Jpn J Clin Oncol, 49(4):383-388, 2019.

・ 研究分担者 齊藤英子

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市

区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

齊藤英子, 藤井多久磨: 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 子宮頸がん検診における精度管理 (マネジメント) 体制の構築 ー新たな検診手法導入を念頭においてー. 日本産科婦人科学会雑誌, 71 (3) : 469-477, 2019.

・ 研究分担者 森定 徹

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

青木大輔, 森定 徹: 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 がん検診における精度管理の考え方ーアセスメントとマネジメントの関係性を踏まえてー. 日本産科婦人科学会雑誌, 71 (3) : 449-458, 2019.

・ 研究分担者 高橋宏和

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

Fujiwara M, Inagaki M, Shimazu T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Kakeda K, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N: A randomised controlled trial of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia in psychiatric outpatient clinics: study protocol for the J-SUPPORT 1901 (ACCESS) study. BMJ Open, 9(11): e032955, 2019.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 日本の対策型検診における直近 5 年度分の偶発症頻度について. 厚生の指標, 66(7):13-19, 2019.

・研究分担者 雑賀公美子

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 青木大輔, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博: 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情. 日本がん検診・診断学会誌, 27(2):151-158, 2020.

Saika K, Matsuda T: International comparison of uterine cancer incidence by detailed sites. Jpn J Clin Oncol, 49 (9), 890-891, 2019.

宮城悦子, 雑賀公美子: 【特集】今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精度管理 (マネジメント) の現状と課題. 日本産科婦人科学会雑誌, 71(3): 459-468, 2019.

齊藤英子, 河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 森定徹, 斎藤博, 青木大輔: 子宮頸がん検診への HPV 検査導入までの経緯とその運用 - オランダ・オーストラリアの事例 - 日本がん検診・診断学会誌, 26(2):139-146, 2019.

2. 学会発表

・研究代表者 青木大輔

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会 (岡山), 2019/ 11/16

仲村 勝, 植田政嗣, 岩田 卓, 木口一成, 三上芳喜, 青木大輔: 子宮頸癌検査として剥離細胞分析装置 LC-1000 の臨床的有用性を検証する臨床試験. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会 (岡山), 2019/11/16

青木大輔: シンポジウム AYA 世代における子宮頸癌の診断と治療. 第 57 回日本癌治療

学会学術集会 (福岡), 2019/10/25

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第 78 回日本公衆衛生学会総会(高知)

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/ 09/29

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/ 09/29

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/ 09/29

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 -直近 2 年間の精検受診について-. 第 28 回日本婦人科

がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/09/28

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/07/04

青木大輔: 招待講演 子宮頸がん検診の精度管理の考え方. 婦人科腫瘍学術講演会 (佐世保), 2019/06/28

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/06/09

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D: Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

Morisada T, Teramoto K, Takano H, Hashi A, Sasaki H, Aoki D: CITRUS study, a randomised trial assessing effectiveness and management issues of cervical cancer screening program using co-testing with cytology and HPV testing. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

・研究分担者 八重樫伸生

Shigeta S, Shimada M, Tsuji K, Tokunaga H,

Yamaguchi S, Takeshima N, Nakanishi T, Yaegashi N, Mikami M, Sugiyama T: A clinicopathological analysis of 2378 patients with FIGO 2018 stage IB1/IB2 cervical cancer by Japanese Gynecologic Oncology Group Network (JGOG 1072s). The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/10/10

萩原達也, 島田宗昭, 辻圭太, 徳永英樹, 児玉省二, 齋藤豪, 藤堂幸治, 榎本隆之, 八重樫伸生: 子宮頸癌進行期分類 FIGO2018 の検証 IB3 期(FIGO2018)の臨床病理学的検討. 第 67 回北日本産科婦人科学会 (福井), 2019/09/28

辻圭太, 島田宗昭, 重田昌吾, 徳永英樹, 山口聡, 竹島信宏, 中西透, 齋藤俊章, 八重樫伸生, 三上幹男, 杉山徹: 子宮頸癌進行期分類 FIGO2018 の検証 IB1/IB2 期(FIGO2018)の臨床病理学的検討. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (新潟), 2019/07/04

土岐麻実, 徳永英樹, 岡本聡, 石橋ますみ, 重田昌吾, 辻圭太, 島田宗昭, 八重樫伸生: 子宮頸部異型腺細胞の細胞診判定における p16^{INK4a}/Ki67 二重免疫染色の有用性. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (新潟), 2019/07/04

Tokunaga H, Okamoto S, Ishibashi M, Shimada M, Yaegashi N: Efficiency of a dual p16^{INK4a}/Ki-67 immunocytochemistry to evaluate atypical glandular cells of the uterine cervix. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/06

辻圭太, 島田宗昭, 徳永英樹, 山口聡, 竹島信宏, 中西透, 齋藤俊章, 八重樫伸生, 三上幹男, 杉山徹: 子宮頸癌腺癌 IB1 期症例における臨床病理学検討. 第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会 (名古屋), 2019/04/14

・研究分担者 藤井多久磨

Fujii T: Lecture – Current status and future task for cervical cancer screening in Japan. JHU-ASC-JSCC Joint Cytology Course 2019(Tokyo, Japan) 2019/12/14

藤井多久磨：教育講演 コルポスコープ検査.
第60回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京),
2019/06/09

Fujii T Current Status of Cervical Cancer Prevention UK, New Zealand, USA and Japan: Crossroads for Primary and Secondary Cervical Cancer Prevention in Japan. 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia) 2019/05/06

藤井多久磨：教育講演 コルポスコープで観察できる子宮頸部・腔内病変. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会(名古屋), 2019/04/14

・研究分担者 宮城悦子

佐治晴哉, 有野祐子, 片山佳代, 鈴木幸雄, 今井雄一, 水島大一, 丸山康世, 長谷川哲哉, 松永竜也, 中山富雄, 宮城悦子: シンポジウム 本邦におけるHPV検査を用いた実効性のある子宮頸がん検診のアルゴリズムを考える. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山), 2019/11/16

宮城悦子: シンポジウム 子宮頸がん予防ワクチンを考えるいかに日本の子宮頸がん予防の危機的状況を克服していくべきか? 第57回日本癌治療学会学術集会(福岡), 2019/10/25

山口真奈子, 関根正幸, 工藤梨沙, 安達聡介, 上田豊, 宮城悦子, 原めぐみ, HanleySJB, 榎本隆之: 日本人女性における性的活動性とHPV感染、子宮頸部組織診異常との関係. 第57回日本癌治療学会学術集会(福岡), 2019/10/25

丸山康世, 助川明子, 岩泉ゆき葉, 中川沙綾子, 木野民奈, 山本賢史, 紙谷菜津子, 鈴木幸雄, 平吹知雄, 宮城悦子: 妊娠初期の子宮頸部細胞診における採取器具についての検討. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/09/29

助川明子, 鈴木幸雄, 榎本隆之, 関根正幸, 上田豊, 宮城悦子: 大学生は子宮頸がん予防をどのように捉えているか? -医学部新入生を対象とした意識と知識に関する調査-. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/07/06

丸山康世, 助川明子, 岩泉ゆき葉, 中川沙綾子, 木野民奈, 山本賢史, 中島文香, 堀田裕一朗,

平田豪, 成毛友希, 平吹知雄, 宮城悦子: 当院で分娩した妊婦の妊娠初期の子宮頸部細胞診の現状. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/07/04

宮城悦子: シンポジウム HPV ワクチンを再考する・子宮頸がん予防の未来を考える. 第137回関東連合産科婦人科学会総括・学術集会(東京), 2019/06/16

佐治晴哉, 有野祐子, 片山佳代, 鈴木幸雄, 今井雄一, 丸山康世, 長谷川哲哉, 松永竜也, 宮城悦子: シンポジウム ASC-USの判定を再考してみる・HPVトリアージを通したASC-USの評価を再考する. 第60回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2019/06/08

八木麻未, 上田豊, 榎本隆之, 宮城悦子, 中山富雄, 池田さやか: 本邦における生まれ年度ごとのCIN3罹患リスク評価とHPVワクチンの有効性. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会(名古屋), 2019/04/14

・研究分担者 中山富雄

Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T: The status of compliance with guideline of cancer screening in Japan. 12th European Public Health Conference.(Marseille,France), 2019/11/20

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山), 2019/11/16

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

高橋宏和, 雑賀公美子, 松田和子, 町井涼子, 斎藤博, 中山富雄: 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態. 第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic

Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

中山富雄：がん検診にかかわる疫学研究の現状. 第78回日本癌学会学術総会 癌学会・がん疫学分子疫学研究会合同シンポジウム(京都), 2019/09/27,

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔：子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/ 9/29

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔：子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09 /29

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔：地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 —直近 2 年間の精検受診について—. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/28

高橋宏和, 中山富雄：シンポジウム がん検診における普及と実装. 第42回日本がん疫学・分子疫学研究会総会(東京) 2019/07/12

中山富雄：ワークショップ どうなる、日本の子宮頸がん検診～HPV 検査導入の課題～子宮頸がん検診のエビデンスの整理. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/07/06

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔：シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/ 06/09

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔：子宮頸部細胞診の現状と可能性: シンポジウム 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会 (岡山), 2019/ 11/16

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔：子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第 78 回日本公衆衛生学会総会 (高知), 2019/10/24

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D : Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博：我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/29

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔：子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/ 09/29

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔：子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09 /29

・研究分担者 齊藤英子

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較—直近2年間の精検受診について—. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/09/28

齊藤英子: ワークショップ どうなる、日本の子宮頸がん検診～HPV 検査導入の課題～子宮頸がん検診における新たな検診方法導入プロセスの考え方と有効性評価の位置づけ. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/07/06

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/07/04

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウムわが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第60回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2019/06/09

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D: Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

・研究分担者 森定 徹

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮

頸がん検診の現状と今後の展望. 第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山), 2019/11/16

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/10/10

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/10/10

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/09/29

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/09/29

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第28回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(奈良), 2019/09/29

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較—直近2年間の精検受診

について。第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/28

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題。第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/ 07/04

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況。第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/ 06/09

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D: Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

Morisada T, Teramoto K, Takano H, Hashi A, Sasaki H, Aoki D: CITRUS study, a randomised trial assessing effectiveness and management issues of cervical cancer screening program using co-testing with cytology and HPV testing. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

・研究分担者 高橋宏和

Takahashi H, Matsumoto A, Nakayama T: Cancer screening may cause overdiagnosis in Japan. Preventing Overdiagnosis 2019 (Sydney, Australia), 2019/12/05

Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T: The status of compliance with guideline of cancer

screening in Japan. 12th European Public Health Conference.(Marseille,France), 2019/11/20

高橋宏和: ワークショップ 乳癌検診における国外の状況について。第29回乳癌検診学会学術総会(福井), 2019/11/09

松本綾希子, 高橋宏和, 中山富雄: ワークショップ 過剰診断について。第29回乳癌検診学会学術総会(福井), 2019/11/08

Takahashi H, Matsumoto A, Matsuda K, Machii R, Saika K, Nakayama T: Overdiagnosis by conducting cancer screening other than guidelines in Japan. The 15th Guidelines International Network (Adelaide, Australia), 2019/10/31

鉢嶺元誉, 町井涼子, 高橋宏和, 宮里治, 金城福則, 斎藤博: 大腸がん検診精検受診率向上を目的とした、県主導による精度管理体制の構築について。第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/25

高橋宏和, 雑賀公美子, 松田和子, 町井涼子, 斎藤博, 中山富雄: 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態。第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

松本綾希子, 高橋宏和, 中山富雄: 乳癌検診において単回の要精検率が累積偽陽性率に及ぼす影響。第78回日本公衆衛生学会総会(高知) 2019/10/24

大槻曜生, 齊藤順子, 早川雅代, 片野田耕太, 松田智大, 高橋宏和, 高橋都, 吉見逸郎, 島津太一: 日本人におけるがんに関する健康情報へのアクセス、IT利用、健康行動についての調査。第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

Takahashi H: Lung cancer screening in Japan. APEC Regional Workshop on Lung Cancer Prevention and Control (Beijing, China), 2019/10/23

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 ー直近 2 年間の精検受診についてー。第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/28

高橋宏和, 中山富雄: シンポジウム がん検診における普及と実装. 第42回日本がん疫学・分子疫学研究会総会(東京), 2019/07/12

雑賀公美子, 松田一夫, 高橋宏和, 町井涼子, 斎藤 博: がん検診のプロセス指標の基準値の設定手法について. 第58回日本消化器がん検診学会総会 附置研究会 (岡山), 2019/06/07

小川俊夫, 喜多村祐里, 高橋宏和, 地智紀, 山口真寛, 武藤正樹, 今村知明, 祖父江友孝: レセプトを用いた職域がん検診の精度 管理指標の算出手法の検討. 第92回日本産業衛生学会総会 (名古屋), 2019/05/20

・研究分担者 戸澤晃子

戸澤晃子, 三上幹男, 津田千春, 大原樹, 鈴木直, 池田 仁恵, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 榎本隆之, 片渕 秀隆: 子宮頸部円錐切除症例の拳児希望症例に関する後方視的検討. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会(名古屋), 2019/04/14

・研究分担者 雑賀公美子

Kono K, Matsuda K, Machii R, Saika K, Takahashi H, Nakayama T: The status of compliance with guideline of cancer screening in Japan. 12th European Public Health Conference.(Marseille,France), 2019/11/20

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診の現状と可能性: 日本と海外の子宮頸がん検診の現状と今後の展望. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会 (岡山), 2019/ 11/16

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性評価研究. 第 78 回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

高橋宏和, 雑賀公美子, 松田和子, 町井涼子, 斎藤博, 中山富雄: 都道府県が市区町村に指導および推奨するがん検診内容の実態. 第78回日本公衆衛生学会総会(高知), 2019/10/24

Kono K, Saika K, Nakayama T, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: Cervical cancer

screening trends and geographical distribution in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Differences in the results of evaluation of quality assurance between the two methods of provision of population-based cervical cancer screening in Japan. The 6th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2019) (Incheon, Korea), 2019/ 10/10

雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 森定 徹, 青木大輔, 斎藤 博: 我が国の地域住民検診における検診提供方法別子宮頸がんおよび CIN を含む子宮頸部異常の発見率. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/29

河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 齊藤英子, 森定 徹, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における細胞診従来法・液状検体法および HPV 検査キットの選択の状況. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/29

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における研究参加者の追跡管理状況および今後の課題. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/29

齊藤英子, 雑賀公美子, 河野可奈子, 森定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博, 青木大輔: 地域住民に対する子宮頸がん検診での集団検診と個別検診の精度管理状況の比較 —直近 2 年間の精検受診について—. 第 28 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (奈良), 2019/ 09/28

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 西尾 浩, 仲村 勝, 岩田 卓, 斎藤 博, 青木大輔: 子宮頸がん検診における HPV 検査の有用性を検証するコホート研究の現状報告と検診実施体制の課題. 第 61 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(新潟), 2019/ 07/04

齊藤英子, 雑賀公美子, 町井涼子, 河野可奈子, 中山富雄, 森定 徹, 青木大輔: シンポジウム わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精密検査結果の報告状況. 第 60 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2019/06/09

Saitoh E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: The trend of specimen adequacy in population-based cervical cancer screening in Japan. The 20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Saito H, Aoki D: Preliminary results of first-round cervical cancer screening: a population-based cohort study assessing the efficacy of cytology and human papillomavirus (HPV) testing for cervical cancer screening in Japan. The 20th

International Congress of Cytology (Sydney, Australia), 2019/05/05

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
藤井多久磨
特許出願
出願番号: 特願2018-118960
発明の名称: 子宮頸がん検査用検体
出願日: 2018年6月22日
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

【関連資料】

フォーマット(案)

| 国名 | 研究・ガイドラインの別 | 研究名 (author, title, etc)・ガイドライン名(URL等、年度) |
|--|-------------|---|
| | 研究 ・ ガイドライン | |
| アルゴリズムのフロー | | |
| | | |
| <p>検診を受けて結果「陰性」(=次回の検診対象者)になる割合: (%)</p> <p>検診を受けて結果「陽性」(=精密検査対象)になる割合(要精検率): (%)</p> <p>検診「陽性」者のうち、ただちに精密検査(コルポ診+生検)の対象となる割合: (%)</p> <p>検診「陽性」者のうち、トリアージ※ の対象となる割合: (%)</p> <p>トリアージの対象となった場合、トリアージ検査で陰性となる割合: (%)</p> <p>要精検者のうち精密検査の結果、CIN1など、医療機関でのフォローアップの対象となる割合: (%)</p> | | |
| <p>※</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞診ASC-USのHPV検査、 ・HPV検査陽性の場合のトリアージとしての細胞診 | | |
| 要精検者を通常の検診対象者に戻す条件 | | |
| | | |
| 医療機関でのフォローアップ対象者を通常の検診にもどす条件 | | |
| | | |

| 検診手法 | A | B | C | D |
|--|--|---------------------|-----------------|-----|
| | 細胞診単独 (±トリアージ) | HPV検査単独 (±トリアージ) | HPV検査＋ 細胞診併用 | その他 |
| 年齢の上限/下限 or 検診対象年齢 | : 歳 ~ 歳 | | | |
| 検診間隔 | : | | | |
| 生涯受診回数 (ガイドラインの場合など、わかる場合) | : 回 | | | |
| トリアージ法 | : 細胞診、HPV検査、その他()、なし | | | |
| 細胞診の採取・処理方法 | : 従来法、液状検体法、従来法と液状検体が混在、指定なし、記載なし、その他() | | | |
| HPV検査の種類 | : ハイリスクHPV検査、16, 18型簡易判定法、DNA型判定 その他() | | | |
| HPV検査のキット名 | : | | | |
| 精密検査結果の把握方法 (国家レベルの一元的なデータベースの有無) | : 有 | : 無 | : 不明 | |
| がん罹患の把握方法 (国家レベルの一元的なデータベースの有無) | : 有 | : 無 | : 不明 | |
| 本研究・ガイドラインのstrong point (追跡データの把握率が高い etc) | : | | | |
| 本研究・ガイドラインで考えられるlimitation (サンプルサイズが小さい etc) | : | | | |
| HPVワクチンについての記載/コメント | : | | | |
| 子宮頸部腺癌についての記載/情報 | : | | | |
| 本アルゴリズムをわが国に適応する際の問題点 (精度管理や保険制度上の問題など含めて) | : | | | |
| 大項目2: 精度管理指標(プロセス指標、技術・ 体制的指標)の策定を念頭に置いた、このアル ゴリズムに関するコメント | : | | | |
| 大項目3: 新たながん検診として導入する場合の 準備プロセスに関するコメント | : | | | |
| その他のコメント | : | | | |
| 担当者氏名 | : | | | |

【研究成果の刊行に関する一覧表】

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書 籍 名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|--------------------|-----------|------------------------|------------------------|------|-----|------|---------|
| 鳥居 裕, 藤井多久 磨 | 子宮頸部上皮内腫瘍 | 吉川史隆, 平松祐司, 大須賀穰 | 産科婦人科疾患 最新の治療2019-2021 | 南江堂 | 東京 | 2019 | 232-234 |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|----------------------|----------|----------|------|
| 藤井多久磨,川原 莉奈 | HPVワクチン接種プログラムは子宮頸がん検診をどのように変えるのか? | 産婦人科の実 際 | 69(3) | 275-283 | 2020 |
| 雑賀公美子, 齊藤 英子, 河野可奈 子, 青木大輔, 森 定 徹, 高橋宏和, 中山富雄, 斎藤 博 | 市区町村事業として実施されている子宮頸がん検診にヒトパピローマウイルス (HPV) 検査を導入した自治体におけるがん検診体制の実情 | 日本がん検 診・診断学会 誌 | 27(2) | 151 -158 | 2020 |
| Ito K, Kimura R, Konishi H, Ozawa N, Yaegashi N, Ohashi Y, Suzuki M, Kakizoe T | A comparison of liquid-based and conventional cytology using data for cervical cancer screening from the Japan Cancer Society | Jpn J Clin Oncol | 17;50(2) | 138-144 | 2020 |
| Shimada M, Tokunaga H, Kobayashi H, Ishikawa M, Yaegashi N | Perioperative treatments for stage IB-IIIB uterine cervical cancer | Jpn J Clin Oncol | 17;50(2) | 99-103 | 2020 |

| | | | | | |
|---|---|------------------|---------|-----------|------|
| Matsumoto K, <u>Yaegashi N</u> , Iwata T, Yamamoto K, Aoki Y, Okadome M, Ushijima K, Kamiura S, Takehara K, Horie K, Tasaka N, Sonoda K, Takei Y, Aoki Y, Konnai K, Katabuchi H, Nakamura K, Ishikawa M, Watari H, Yoshida H, Matsumura N, Nakai H, Shigeta S, Takahashi F, Noda K, Yoshikawa H; MINT Study Group | Reduction in HPV16/18 prevalence among young women with high-grade cervical lesions following the Japanese HPV vaccination program | Cancer Science | 110(12) | 3811-3820 | 2019 |
| Fujiwara M, Inagaki M, Shimazu T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, <u>Takahashi H</u> , Nakaya N, Kakeda K, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N | A randomised controlled trial of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia in psychiatric outpatient clinics: study protocol for the J-SUPPORT 1901 (ACCESS) study | BMJ Open | 9(11) | e032955 | 2019 |
| <u>Saika K</u> , Matsu da T | International comparison of uterine cancer incidence by detailed sites | Jpn J Clin Oncol | 49(9) | 890-891 | 2019 |
| Nakamura M, Ueda M, Iwata T, Kiguchi K, Mikami Y, Kakuma T, <u>Aoki D</u> | A Clinical Trial to Verify the Efficiency of the LC-1000 Exfoliative Cell Analyzer as a New Method of Cervical Cancer Screening | Acta Cytologica | 63(5) | 1-10 | 2019 |

| | | | | | |
|--|---|-----------------------|--------|-----------|------|
| 藤井多久磨 | コルポスコープで観察できる子宮頸部・腔内病変 | 日本産科婦人科学会雑誌 | 71(8) | 1580-1585 | 2019 |
| 青木大輔 | 子宮頸部病変の検出、診断における細胞診とHPV検査の役割 | SRL 宝函 | 40(2) | 41 - 44 | 2019 |
| 中山富雄 | 検診の意義とそのエビデンスーがん検診ー | 臨床と研究 | 96(8) | 8-12 | 2019 |
| Taniguchi M, Ueda Y, Yagi A, Ikeda S, Endo M, Tomimatsu T, Nakayama T, Sekine M, Enomoto T, Kimura T | Cervical cancer screening rate differs by HPV vaccination status: An interim analysis | Vaccine | 37(32) | 4424-4426 | 2019 |
| 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄 | 日本の対策型検診における直近5年度分の偶発症頻度について | 厚生 の指標 | 66(7) | 13-19 | 2019 |
| Suzuki Y, Sukegawa A, Nishikawa A, Kubota K, Motoki Y, Asai-Sato M, Ueda Y, Sekine M, Enomoto T, Hirahara F, Yamanaoka T, Miyagi E | Current knowledge of and attitudes toward human papilloma virus-related disease prevention among Japanese: A large-scale questionnaire study | J Obstet Gynaecol Res | 45(5) | 994-1005 | 2019 |
| Kawaguchi R, Miyagi E, et al. | Guidelines for office gynecology in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2017 edition | J Obstet Gynaecol Res | 45(4) | 766-786 | 2019 |

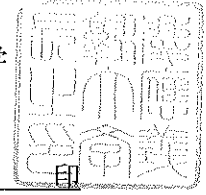
| | | | | | |
|--|--|------------------|-------|---------|------|
| Fukui K, Ito Y, Nakayama T | Trends and projections of cancer mortality in Osaka, Japan from 1977 to 2032 | Jpn J Clin Oncol | 49(4) | 383-388 | 2019 |
| 青木大輔, 森定徹 | 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 がん検診における精度管理の考え方ーアセスメントとマネジメントの関係性を踏まえてー | 日本産科婦人科学会雑誌 | 71(3) | 449-458 | 2019 |
| 宮城悦子, 雑賀公美子 | 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 わが国の地域住民検診における子宮頸がん検診の精度管理 (マネジメント) の現状と課題 | 日本産科婦人科学会雑誌 | 71(3) | 459-468 | 2019 |
| 齊藤英子, 藤井多久磨 | 【特集】 今日の子宮頸がん検診の精度管理とその課題 子宮頸がん検診における精度管理 (マネジメント) 体制の構築 ー新たな検診手法導入を念頭においてー | 日本産科婦人科学会雑誌 | 71(3) | 469-477 | 2019 |
| 青木大輔 | 子宮頸がん検診の現状と課題 | 東京都医師会雑誌 | 72(3) | 195-198 | 2019 |
| 宮城悦子 | 婦人科がんの最近の話題 子宮頸がんとHPV | 医学と薬学 | 76(2) | 143-152 | 2019 |
| 齊藤英子, 河野可奈子, 雑賀公美子, 中山富雄, 森定徹, 斎藤博, 青木大輔 | 子宮頸がん検診へのHPV検査導入までの経緯とその運用 - オランダ・オーストラリアの事例 - | 日本がん検診・診断学会誌 | 26(2) | 139-146 | 2019 |

| | | | | | |
|---|---|-------------------------|--------------|-------------|-------------|
| <p>Ebina Y, Mikami M, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Tashiro H, Mandai M, Enomoto T, Kobayashi Y, Katabuchi H, <u>Yae</u>gashi N, Udagawa Y, <u>Aoki</u> D</p> | <p>Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer</p> | <p>Int J Clin Oncol</p> | <p>24(1)</p> | <p>1-19</p> | <p>2019</p> |
|---|---|-------------------------|--------------|-------------|-------------|

令和2年3月31日

厚生労働大臣 殿

機関名 慶應義塾大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 長谷山 彰



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授
(氏名・フリガナ) 青木 大輔・アキ ダイソ

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

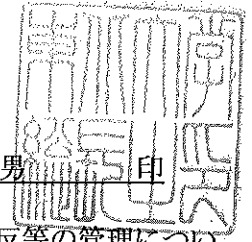
| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年2月3日

厚生労働大臣 殿

機関名 東北大学
所属研究機関長 職名 総長
氏名 大野 英男



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学系研究科・教授
(氏名・フリガナ) 八重樫 伸生 ・ヤエガシ ノブオ

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|--|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容: 研究実施の際の留意点を示した。) |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年 2月 5日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 学校法人藤田学園
所属研究機関長 職名 藤田医科大学学長
氏名 才藤 栄一 印

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 令和元年度厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
- 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 研究者名 (所属部局・職名) 藤田医科大学医学部産婦人科学 教授
(氏名・フリガナ) 藤井 多久磨 (フジイ タクマ)

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年 2月 3日

厚生労働大臣 殿

機関名 横浜市立大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 窪田 吉信



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・教授
(氏名・フリガナ) 宮城 悦子 (ミヤギ エツコ)

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | 横浜市立大学 | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん健診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 社会と健康研究センター 検診研究部・部長
(氏名・フリガナ) 中山 富雄・ナカヤマ トミオ
- 4. 倫理審査の状況 該当性の有無が有の場合は、審査を受けた研究課題番号を記載：

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年3月23日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名

所属研究機関長 職名 国際医療福祉大学三田病院
氏名 病院長 山田 芳



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 厚労科研補助金 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 研究者名 (所属部局・職名) 国際医療福祉大学三田病院・予防医学センター講師
(氏名・フリガナ) 齊藤英子・サイトウエイコ

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

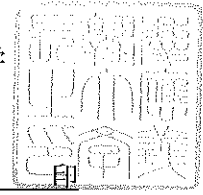
| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月31日

厚生労働大臣 殿

機関名 慶應義塾大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 長谷山 彰



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・専任講師
(氏名・フリガナ) 森定 徹・モリサダ トオル

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する口をチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん健診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 社会と健康研究センター 検診研究部 検診実施管理研究室・室長
(氏名・フリガナ) 高橋 宏和・タカハシ ヒロカズ
- 4. 倫理審査の状況 該当性の有無が有の場合は、審査を受けた研究課題番号を記載：

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：) |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

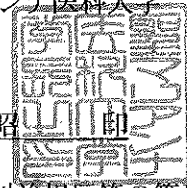
2020年5月20日

厚生労働大臣 殿

機関名 聖マリアンナ医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 北川 博昭



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・病院教授
(氏名・フリガナ) 戸澤 晃子・トザワ アキコ

4. 倫理審査の状況

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:) |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 わが国の子宮頸がん健診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) がん対策情報センター がん登録センター・研究員
(氏名・フリガナ) 雑賀 公美子・サイカ クミコ
- 4. 倫理審査の状況 該当性の有無が有の場合は、審査を受けた研究課題番号を記載：

| | 該当性の有無 | | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1) | | |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
| | 有 | 無 | 審査済み | 審査した機関 | 未審査 (※2) |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

| | |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

| | |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：) |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無 | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：) |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。